
不幸の種が芽吹く時

麻未夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不幸の種が芽吹く時

【Nコード】

N0199Q

【作者名】

麻未夢

【あらすじ】

豊かで美しい国の美しい城。そこに住んでいるのは、恐ろしい姿をした魔物でした。隣国の王は、その豊かな国のおこぼれに与ろうと魔物の妃にと姫君を差し出した。

昔々、あるところにそれはそれは美しい国がありました。

事情を何も知らずに立ち寄った旅人は、さぞや立派な王様とお后様がこの国を治めておられるのだらうと、立派なお城を見上げながら感嘆と羨望の溜息を吐くばかり。

けれども、この国の住人たちから、そのお城に住んでいるのが王様でもお后様でも、ましてや聡明な王子様でも美しいお姫様でもないことを知らされるや、彼らは早々にこの国を立ち去ってしまいます。

この国を治めているのが、醜く捻れた角と尖った尻尾を持った魔物だと知っては、それもやむを得ないでしょう。

しかし魔物は、その見かけとは違って、この国を立派に治めており、住民たちは魔物の見かけに慣れることもなければ親しみを覚えることもありませんでしたが、魔物に治められたこの国での生活になんら不満を感じることなく、毎日を平和に過ごしておりました。

そんな折り、隣国の王様から魔物へ、こんな書状が届けられました。

—— 我らは隣国同士であるのだから、もう少し親しい関係を結ぶべきではないだろうか。ついては、我が国の末の姫を后として迎えていただきたい。

魔物はその手紙を読んで、顔をしかめました。

隣国は悪い国ではないのですが、王の資質と后の浪費癖に難を抱え、あまり裕福な国ではありません。つまり、豊かな魔物の国のおぼれに預かろうという魂胆が、あまりにも見え見えだったのです。魔物は、急いで返事を書きました。

—— 美しく年若い姫君を、魔物の后になどしてはいけません。そんな風な事を、とても丁寧な言葉でしたため、隣国の王を諭そうとしたのです。しかし、隣国の王は、強引に姫君を魔物の城へと

送りつけてきました。

戻っても追い出されるだけだと泣く姫君を、魔物は受け入れざるを得ません。

そして、魔物と美しく年若い姫君は結婚し、姫君は若く美しいお后様として、この国の住人たちから盛大な歓迎を受けたのです。

美しい国に立派な城。毎日のように魔物から捧げられる新しい絹のドレスに首飾り。

お后となった姫君は、とても幸せでした。—— 夫が醜く捻れた角と、尖った尻尾を持った魔物であること以外は。

それでも、母国のためにお后は魔物を愛さなければなりません。

そんな健気な様子に、魔物は心を打たれたのでしょうか。愛の証として、自分の弱点をお后にそつと教えてあげたのです。

するとお后もまた、そんな魔物の誠意を嬉しく思い、二人は、いわゆる愛とはまた別の気持ちで通じ合い、それなりに幸せに暮らし、この国を治めていました。

しかし隣国の王は、自分が強引に姫君を魔物に押しつけた事などすっかり忘れてしまったのか、自分の国の勇敢な騎士達を集めて、姫君を無事に助け出した者に褒美を与えるなどとお触れを出したことで、この平和は終わりを迎えます。

名乗りを上げたのは、若く美しい一人の騎士。

彼は早速愛馬を駆って、魔物の国へと向かいました。

そして早々と城に侵入し、魔物とその后となった姫君を前に剣を抜きました。

魔物からすれば、その騎士は自分を殺しにきた悪漢以外の何者でもありません。やはり剣を抜き、騎士に相対します。

もっとも、弱点さえバレなければ、騎士が魔物を打ち取る事は不可能なのです。それを承知している魔物は防戦一方に立ち、騎士が力尽きるのを待つ事にしました。

と、傍でそんな二人の戦いを為す術なく見守るばかりだった后は、夫である魔物と剣を交わす騎士の美しい顔に、あっさり一目惚れを

してしまいました。

彼女は澄んだ声で、こう叫びます。

「その捻れた角と尖った尻尾を切り落とせば、魔物は死にます！」
その瞬間、魔物は大切にしていたお后に裏切られたショックで、
剣を取り落としてしまいました。

騎士がそのチャンスを見逃すはずがありません。すぐに後の言に従い、角と尻尾を切り落としてしまいました。
すると、どうでしょう。

どれだけ剣で突いても切り裂いても血が流れる事がなかったその
身体から、大量のどす黒い血が吹き出してくるではありませんか。

騎士は自身のマントで后を庇い、魔物の最後の様子を見守ります。
床に倒れ伏す魔物。

自身から溢れだしたどす黒い血に身体を浸し、その身体はどん
どん溶けていきました。

そして魔物は本当の姿を現したのです。

「まあ、なんてこと……」

床に倒れ伏しているのは魔物ではなく、一人の若者でした。

金色の巻き毛は、どす黒い血の中にあって輝きを失わず、まるで
太陽の様に光輝いています。

そこへ、ようやく騒ぎに気づいた、この城の騎士達や下働きの者
達がやってきました。

「王子様！」

騎士達が口々に叫びながら駆け寄ります。一方、下働きの者達は
言葉もなく立ち尽くす者、その場にうずくまって泣き伏す者、様々
でした。

城の騎士の一人が言うには、この国は魔女の呪いにかかれ、王
と后は死に、王子は醜い魔物の姿に変えられてしまったという話で
す。

当然、騎士達や下働きの者達、更には国民全てが魔物の正体を知
っていましたが、それを口にするには許されませんでした。

魔女は、魔物の正体が王子であることが余所者に知れた瞬間に、王子は死に、国中が火の海に飲み込まれるという呪いもかけていたのです。

魔物の正体が王子である事を知りつつも、魔物として扱わなければならぬという忸怩たる思いを、当の王子の命を守る為に堪え忍んできたというのに、今や王子は、その命を隣国の騎士によって奪われ、しかもそれに荷担したのは誰あるう、この国の后となった隣国の姫君。

城の騎士達は怒りの眼で、二人を睨みつけます。既に、剣に手をかけている者すらいました。

隣国の騎士は后を伴い、慌てて逃げ出します。けれど、隣国の門は閉ざされ、二人を迎え入れてはくれません。

必死に父王に助けを求め、呼びかける姫君。しかし、その悲痛な叫びも、追ってきた騎士達に敢えなく惨殺される瞬間の断末魔の叫びすらも、王の心を動かすことはありませんでした。

しかし、王子を殺した騎士と后を惨殺したところで、怒りが収まる騎士達や国民ではありません。そもその原因は、隣国の王の身勝手な行動にあるのです。

騎士ばかりではなく、農民や職人すらも手に武器を携え、隣国に攻め込みました。

そして、堅く閉ざされた城門を突破され、隣国が為す術なく滅ぼされるまでに、時間はそう掛かりませんでした。

一方、魔物の姿に変えられた王子が治めていた国もまた、火の海に包まれ滅ばされてしまいました。魔女は、王子が死んだ後も呪いを解けなかったのです。

帰る国を失った彼らは、自分達の手で滅ぼしたばかりの隣国を前に、ただただ悲しみに暮れる他ありません。

そうやって二つの国が滅びる様を、ホウキに跨り空から観賞していた魔女は、甲高い笑い声を立てて、またどこかの国に新たな不幸の種をばらまくために、遠く空へと向かって飛んでいくのでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0199q/>

不幸の種が芽吹く時

2011年1月7日22時55分発行